

大谷教師塾 教員養成ナビゲーター

大谷大学
教職支援センター

第131号
2023. 3. 1

備えあれば憂いなし

大谷大学 教職支援センター副センター長 関口 敏美

大学の春期休暇は長いですが、有効活用できていますか？新学期には学年が一つ進み、新4年生は教員採用試験が間近に迫ります。

近年、教員採用試験日程が前倒しの傾向にあるので準備は早めに始める必要があります。4年生に比べ、3年生はあと一年、2年生はあと二年、余裕を持って準備できます。

早めの試験対策の重要性を理解できても、何をどのように準備すればよいのか全くわからない、なかなか計画通りに進まず時間を無駄にしてしまった…と後悔する前に、大学で受講できる**教員採用試験受験対策講習**(以下、**対策講習**と略記)をご紹介します。

大谷大学では、キャリアセンターと教職支援センターが連携して教職希望者を支援する講座を開講しています。教員採用試験対策の時間を予定表に組み込んでしまえば、あとは実行あるのみです。個人で予備校に行くよりも、時間も経費も大きく節約できます。

詳しくは、最新版の『2023年度キャリア支援案内』で**対策講習**の申込期間や開講日程・受講料・テキスト代などを確認してください(大学HPでもPDF版を参照できます)。

対策講習は、1年生から4年生まで、学年進行に応じて受講できるように、四段階に分かれています。以下、簡単に紹介します。

対策講習(一般教養 前半)は、1年生から受講できます。内容は公務員試験と共通で通年開講です(生講義90分×62回、学習ナビゲーション90分×4回)。受講時から二年間視聴可能なWeb講義(テーマ毎に各回150分)は、講習の復習や自主学习に最適です。

2年生では1年生に続いて、**対策講習(一般教養 後半)**が受講できます。こちらも受講時より二年間視聴できるWeb講義(テーマ毎に各回150分)がついており、2年生で受講すると4年生10月末まで視聴できて大変お得です。また、小学校の教員をめざす人は、夏休み中に集中講義形式で**対策講習(小学校5教科)**が受講できます。専門教科の試験対策として、国



語・社会・算数・理科・英語を重点的に勉強できるチャンスです。

さらに、春休みにも小学校、中等科の2～3年生を対象にした集中講義形式の**対策講習(教職教養)**が受講できます。内容は教職教養に特化して、前半の教職教養基礎では、大学の授業でも学ぶ内容をどう採用試験の勉強へと繋げるのかなど、丁寧に解説します。後半は実践的な問題演習で教育原理・教育法規・教育心理・学習指導要領・教育史・教育時事など採用試験で必出の内容を解説します。

採用試験は3年生から受験できる自治体も出てくるなど、早期化しており、筆記試験対策となる**対策講習**の小学校5教科と教職教養は、試験直前の3年生だけでなく2年生から受講できるようになっています。

対策講習(直前面接)は、採用試験直前の4年生・大学院生が受講できます。全12コマで個人面接・集団面接・集団討議など面接指導に重点化した実践的な内容です。大学推薦で受験する場合は受講を義務づけています。

対策講習には全てテキストもついているので、どのテキストを選ぶかで迷う人にはおすすめです。教員採用試験対策は、何冊も問題集やテキストを使うより、同じテキストを何回も繰り返す方が身につくからです。

教員採用試験は、受験する自治体によって微妙に内容が異なるので、必ず自分が希望する自治体の教育委員会HPで情報収集をしてください。過去問も三年分くらい目を通すと出題傾向が把握できます。

教員採用試験では、筆記試験が第一関門となる場合が多いので、一次試験を突破することが肝要です。一次試験を突破すれば次年度は免除されるので、常勤講師をしながら二次試験から受験することができて有利です。

さあ、一人であれこれ迷うより**対策講習**の受講を検討してください。必ず役に立ちます。



《こんな先生になります》

(採用内定自治体) 校種は全て小学校

《児童の力を引き出せる先生に》

教育学科 安藤 和之 (愛媛県)



先生が思い描く理想へ児童を近づけるのではない。グラフが正多角形でなくてもいい。いびつでいい。児童に関わる中でそれぞれの良さや力を引き出し、伸ばしていきたい。さらに、違いを当たり前として互いに受け入れ、それぞれがもつ色があふれるカラフルな学級を私はつくっていきたい。

《子どもを見守ることができる先生に》

教育学科 岩崎 琴音 (滋賀県)



子どもにとって、学校は楽しいことばかりでなく、不安を感じたり悩みが生まれたりする刺激の多い場所であると考えている。子どもがその不安や悩みにぶつかったときに、すぐ手を差し出すのではなく、見守ることができる先生でありたい。そして必要なときには一緒に取り組み、褒めたり叱ったり見守ったりすることを繰り返して子どもの成長を支えていきたい。

子どもの成長を感じながら、私自身も子どもとの関わりから学び、成長を続けることができるように努力していく。

《子どもたちに良い影響を与えられる先生に》

教育学科 宇治 愛理 (豊能地区)



私が理想とする先生像は豊かな対話力で子どもに寄り添い、共に学び続けることができる先生である。私の恩師は全てそうした先生で、その多大な影響を受けて、私は小学校教員になるために今まで努力し続けることができた。今度は私が子どもたちに良い影響を与えることができるよう、これからも明るく元気な笑顔で、一人ひとりと真摯に向き合い、自分らしさを大切にしながら頑張っていきたい。

《良い学びを提供し、傍で支えられる先生に》

教育学科 梅田 翔太 (大阪府)



児童は、私たちの想像をはるかに超えるスピードで成長していくことを学校ボランティアや教育実習等を通して体感した。さらに、一番の理解者としてその成長を支えることが先生のやりがいであり、児童が求めていることであるとも感じた。

そうした児童の実態を踏まえると、先生側も常に試行錯誤を行い成長し続けなければならない。児童にとってたった一人の担任であるという自覚と責任をもって、良い学びを提供し傍らで支えられる先生を目指していきたい。

《「ホッ」とする環境をつくれる先生に》

教育学科 辻 杏奈（京都市）



在学中の教育実習や学校ボランティアから、授業や日常の関わりなどを通して児童と共に成長し、学び続けていくことができる教職に強いやりがいを感じた。自身の至らなさから辛い日もあったが、そんな時でも児童や教職員など周囲の方々に支えていただいた。

これからは、学んだことを活かして児童一人ひとりに向き合い、その力を引き出し、「ホッ」とする環境をつくることのできる先生になりたい。そのために真摯で謙虚な姿勢、笑顔と元気よさを大切に、日々過ごしていきたい。

《愛に溢れた環境をつくれる先生に》

教育学科 辻 晴菜（京都府）

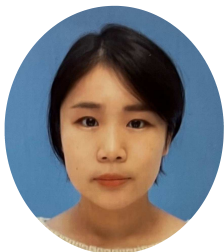


私は、子どもたちには「ありがとう」や、「ごめんなさい」が言える子に育ててほしいと願っています。そのためには、私から進んで挨拶の輪を広げていくことが必要です。そして愛に溢れた環境を自らの手でつくっていける先生になりたいと思っています。

子どもたちに「明日も辻先生に会うために学校に行こう。」と思ってもらえるような先生を目指して、感謝の気持ちを忘れず、私は子どもたちとともに成長し続けます。

《子どもと向き合う笑顔あふれる先生に》

教育学科 中村 彩音（滋賀県）



私は、教育実習で子どもと向き合う際に常に温かい笑顔でいるように心がけていた。話すとき聞くときには、目を見て子どもが伝えようとしていることを真っ直ぐ感じ取ることが大切にしてきた。

そして私は、春から先生になる。子どもと向き合う姿勢を忘れず、笑顔を届けられる明るい先生を目指したい。一人の先生として子どもたちを支え、ともに成長していけるように学び続けたいと思う。

《心身ともに健康な先生に》

教育学科 橋村 有美（京都市）



先生が心身ともに健康であると、教室が温かい雰囲気になり、児童にとって安心できる場所となる。逆に先生が毎日忙しくてしんどそうだと、相談したくてもできない児童が増え、教室の雰囲気も暗くなってしまうかもしれない。私は心身ともに健康な状態を常に維持して、笑顔で児童を教室に迎え入れ、そして笑顔で送り出すことができる先生を目指したい。

《良さや可能性を引き出し、伸ばすことができる先生に》教育学科 橋本 隼 (横浜市)



どの子どもにも素敵なよさがある。そのよさを見逃さずに引き出し、最大限伸ばせる先生であるとともに目の前の子どもの成長を喜び合う先生でありたい。そのためにも、まず専門的な力量を日々高め、子どもの取り組む姿勢に目を向け、子どもが自分のよさを実感できるよう、愛情を持って関わっていきたい。

経験の少なさからの不安はたくさんあるが、児童理解を大切に子どもの豊かな成長を支え続ける先生でありたい。

《子どもに安心感を与える先生に》

教育学科 花城 萌香 (大阪府)



私は子どもたちに安心感を与えられる先生になりたい。生活面や勉強面で困ったことがあるとき「この先生だったら話を聞いてくれる、支えてくれる」と思ってもらえるような先生でいたい。子どもたちにとって先生は、保護者と同じ目に関わる大人であり、毎日多くの時間を共に過ごす存在だ。子どもたちが教室を自分の居場所だと思うには、教室環境を整えることは勿論だが、先生が温かく一人一人と向き合うことが大切だと考える。「先生と児童」で線引きは必要ではあるが、まず子どもと近い距離で接して信頼関係を築いていきたい。

《やる気を引き出せる先生に》

教育学科 福田 桃花 (大阪府)



ボランティアや教育実習を通して、児童のやる気の出し方は先生の少しの工夫で変わってくることを知り、その影響力の大きさを実感した。

私は、児童に何事にも挑戦する勇気を持ち続けてもらいたい。そのためには、児童が安心して過ごせる環境づくりと先生との信頼関係が必要である。児童との良好な関係を丁寧に築き、学習面、生活面で様々な挑戦ができるような場面を設け、児童がやる気をもって挑戦できるように支援する先生で私はありたい。

《子どものもつ力を信じられる先生に》

教育学科 二川 綾乃 (大阪市)



私は学校ボランティアや教育実習で、「子どものため」とはどういうことかを考える機会が多くあった。それは全てに手を差し伸べるのではなく、必要な時に必要な分だけ支え、指導するということであった。時にはその子の力を信じて見守ることも必要だ。そのようにして、一人ひとりを尊重していける先生でありたい。

しかし私にはまだ力が足りない。これからも様々な経験を積み重ねて、常に学び、成長し続けていきたい。

《笑顔溢れる学級が作れる先生に》

教育学科 前川 未来（大阪府）



私は笑顔溢れる学級が作れる先生になりたい。そのために、子どもたちの少しの変化や頑張りに気づき褒めることを基本姿勢とするとともに、私の音楽で得た経験を生かして学級でたくさん歌を歌って子どもたちの感受性を育みたい。そして、互いの良さを認め合える学級を作っていきたい。

《明るさと落ち着きを兼ね備えた先生に》

教育学科 松谷 柚（滋賀県）



私は、明るさと落ち着きを兼ね備えた先生になりたい。クラス全体を明るく元気に引っ張っていく先生は、子どもにとってとても魅力的だ。また、落ち着いて真剣に個別の話を聞いてくれることは、安心感につながると思う。そのようにして信頼関係づくりに努め、「このクラスの一員でよかった」「この先生で良かった」と子どもに思われるように、毎日を大切に過ごしていきたい。

《子どもに学校が楽しいと言われる先生に》

教育学科 山田 あい（京都市）



私は子どもたちが毎日学校に来ることが楽しいと思える学級をつくれる先生になりたい。個性や成育環境などが様々な子どもたちが同じ学級で生活するには、学ぶ楽しさを共有するとともに、子どもたちの得意なことや好きなことを褒めて、自己肯定感を高めることが大切である。そうしたことを学級経営方針としてみんなの笑顔があふれる学級をつくりたい。

《すべての児童に居場所と出番を与えられる先生に》

教育学科 渡邊 彩音（京都市）



すべての児童に居場所と出番を与えることができる先生になるために、大切にしたいことが二つある。一つ目は、一人ひとりの児童と深く関わりその背景まで踏み込んだ児童理解を図ることだ。そして家庭や地域とも連携しながら、個に応じた適切な支援を行いたい。二つ目は、どの児童も生き生きと学ぶことのできる授業を創ることだ。児童が考えたくなるような発問をして、「知りたい」「学びたい」という気持ちを刺激するとともに、確かな学力を保障したい。

令和5年度 公立学校教員採用試験 合格者人数(延べ数)

小学校	24人	京都府2, 京都市4, 滋賀県4, 大阪府5, 大阪市1 豊能地区1, 北海道1, 新潟県1, 千葉県1 横浜市1, 島根県1, 鳥取県1, 愛媛県1
中学校・高等学校	0人	

4年生の皆さんへ

自らの夢を大きく膨らませて、社会に歩み出そうとしている4年生の皆さん。新年度から教員や講師として教職に進む人、企業や専門職に進む人など、進路は様々ですが、決めた道を力強く歩いて行ってくれることを願います。コロナ禍が続き、先が見通せない中、希望と不安が入り混じる気持ちでしょうが、まずはこの4月からの行動すべきことをイメージしながら、一日一日を大切にしてください。

**3年生の皆さんへ**

教育実習や教員採用試験に向けて努力を重ねている3年生の皆さん。昨秋に実施した小論文セミナーには多くの皆さんが参加して論文作成に挑みました。その熱意はアドバイザーにも伝わり、とても力強く感じました。センターではたくさんの論文題を用意しています。春休み中も継続して論文練習に取り組みましょう。



さて、いよいよ採用試験まで数か月となりました。今後は、試験本番までの日々をどのように過ごしていくかが、大きなポイントです。多くの自治体では6月下旬から7月中旬に1次試験が実施されます。自分の教育観を明確にさせながら、筆記試験対策と並行して論文や面接などの表現対策を積み重ねていきましょう。またそうした試験対策と共に自らの人間性を育む活動も大切です。限られた時間を有効に使う計画的に進めていってください。

教職支援センターは、皆さんの夢の実現をお手伝いします。教員採用試験に向けての支援を惜しみません。センターでは大量の情報と経験豊富なアドバイザーが皆さんを待っています。気軽にセンターを訪ねてください。

1年生、2年生の皆さんへ 【採用試験の時期が早くなります!?】

ここ数年、採用試験の内容や時期が大きく変わってきている中、文部科学省が採用試験の日程を早ければ2024年度実施から4月に行うという案を提示しました。皆さんが受験するときは現行より3カ月程度早まる可能性があります。早くから準備を始めるとともに、現状を知ること、情報をもつことが大切です。教職アドバイザーは教職に関する様々な情報をもっています。遠慮なく事務室に来てアドバイザーに声をかけてください。

教職アドバイザーの在室時間（昼休み13：00～14：00は除く）

	月	火	水	木	金
須川			12：00～17：00	12：00～17：00	12：00～17：00
桂	10：30～16：00	10：30～16：00	10：30～16：00	10：30～16：00	
美濃部	12：00～17：00		12：00～17：00		12：00～17：00
佐藤	12：00～17：00	12：00～17：00	12：00～17：00		

※ アドバイザーは4号館1階の教職支援センター事務室で皆さんを待っています。教職に関わることであればどんな些細なことでも相談に応じます。遠慮なく訪ねてきてください！